

ルーツは弥生時代、埴輪を学ぼう

「ほっとやまはく」

タイム②⑤



講座の参加者が作成したオリジナル埴輪

どでした。

ぐつと秋が深まり、朝晩に肌寒さを感じるようになりました。気が付けば、2022年も残り少なくなり、博物館の中でもそろそろ来年度の計画を立て始めているところです。4月に博物館に着任してから半年以上が過ぎましたが、この間の県内における考古学に関する最大のニュースは、下松市の天王森古墳から西日本でも有数の貴重な埴輪（はにわ）が確認されたことです。今回は、この埴輪について、紹介したいと思います。

埴輪（はにわ）は、博物館の教育普及講座の第2弾として10月8日に「埴輪を作ろう！」を開催しました。定員10組30人をはるかに超える申し込みがあり、抽選を実施するほどでした。

埴輪の歴史

では、そもそも埴輪とは何でしょうか。埴輪は古墳に立て並べられた土製の焼き物で、土管のようないくつかの形に作られ、埴輪と人・動物などをかたどった形象（けいしょう）埴輪があります。埴輪のルーツは、2世紀の弥生時代に吉備（現



教育普及講座「埴輪を作ろう！」の一コマ

天王森古墳の埴輪

下松市桜町の天王森古墳（市指定文化財）は、今から約1500年前の6世紀前半に築造された前方後円墳です。下松の市街地や笠戸湾が一望できる地点に位置していま

現在全体が復元されて

いるのは1点のみですが、大刀形埴輪は高さ約1・2メートルの大型品で、鞘（さや）に入れられた状態の大刀を表しています。大刀を所持した人の権威を誇示していたのでした。他の埴輪も今後復元さ



下松市天王森古墳出土の大刀形埴輪（下松市教育委員会提供）

山口県立山口博物館
TEL083-922-0294
月曜休館（祝日の場合は翌日）。
最新情報はホームページで



しての役目に切り替わっていききました。

4世紀前半には、有力者の家、巫女（みこ）・力士・武人・馬飼（うまかい）などの人物、盾・船・蓋（きぬがさ）貴人にさす傘（かさ）といった器財、ウマ・イヌ・イノシシなどの動物をかたどった形象埴輪が出現します。形象埴輪は、当時の人々の姿や生活の一部を伝えるものです。それらが一体として、古墳に配置されていることは、どのような場面をあらわしているのでしょうか。

さまざまな埴輪は、古墳に葬られた人物の後継者が多くの人から承認される様子との説、亡くなった人物を葬る際の儀式という説、生前の晴れの場面を再現したとの説などが考えられています。